

令和6年度用 新編 新しい算数

# 学年別特色一覧

この資料は、令和6年度小学校教科書の内容解説資料として、  
一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

## 目次

第1学年	2
第2学年	3
第3学年	4
第4学年	5
第5学年	6
第6学年	7

### 問題解決の文脈、データ分析の重視！ ⑥わかりやすくせりしめよう

グラフの学習では、**数を調べてグラフにする必然性を重視**しました。また、グラフに表す際に**数を比較するものの大きさをそろえることの大切さが顕在化する題材にこだわる**とともに、**既習の長さの学習と関連づけて、端をそろえて下から色を塗ることのよさも強調**しました。また、**QRコンテンツを設定し、グラフの作成を効率化**できるようにしました。

② p.32

4つのうち1つだけ、あたりのいきものがいます。あたりは、つりがおわたったあとにいます。あたりのいきものをおくったはんががちです。

② p.35

あたりのいきものはかにでした。かにがいちばんおおいはんががちです。

3 2つのはんのけっかをくらべましょう。

1はん 2はん

② それぞれのかずだけいろをぬりましょう。

① かったのはどちらのほんですか。

このQRコンテンツには、上の二次元コードからアクセスしていただけます。

② p.33

よこもそろえるようにすると... はしをそろえるのはながさくらべのときと...

③ いかしてみよう

おりがみをおってきり、おなじかたちをたくさんつくりましょう。つくったかたちで、いろいろなもようをつくりましょう。

おなじかたちが2つできたよ。 もとのおりがみのはんぶんだね。

### 領域をまたいだ素地づくりを重視！

⑩かたちづくり

「新編新しい算数」では、**素地づくりを随所に盛り込んで**います。例えば、かたちづくりでは、**合同や対称など同領域の内容に止まらず、2年で学習する分数や、4年以降に本格化する割合の素地づくりにもなる活動**を設定しました。

② p.125

### たし算、ひき算の理解、定着の重視！ ⑪たし算、⑬ひき算

一位数どうしのたし算とその逆のひき算は、**計算方法を考えることを通して数の構成の理解を深めたり、確実に身につけ**上学年の学習の土台としたりする意味で特に重要です。そこで、**当該の単元では図や操作と式を相互に関連づけていっそういいに扱うことはもとより、当該の単元以外においても数の合成・分解について繰り返し触れるように**しました。さらに、**QRコンテンツを設定し、数の合成・分解についていつでもふり返ったり、繰り返し計算練習に取り組んだり**することができるようにしました。

あといくつで10になりますか。

いくついくつ

② p.59 (当該単元前)

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスしていただけます。

たしざん

9こひろったよ。 4こひろったよ。 あわせると...

いくついくつ

② p.61

10は ●○○○○○○○○

●●○○○○○○○○

●●●○○○○○○○○

●●●●○○○○○○○○

●●●●●○○○○○○○

●●●●●●○○○○○○

●●●●●●●○○○○○

●●●●●●●●○○○○

●●●●●●●●●○○○

●●●●●●●●●●○○

●●●●●●●●●●●○

●●●●●●●●●●●●

1と9

2と8

3と7

4と6

5と5

6と4

7と3

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスしていただけます。

8 + 4 = □

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスしていただけます。

かあとをつかって

けいさんのれんしゅうをしましょう。

おもて 6+7

うら 13

⑬

② p.68

# 2年

## おもな教材の取り扱いの特長

### 子どもが既習をいかす展開の重視！ ⑫かけ算(2)

かけ算九九の学習では、子どもがきまりを見だし、それらをいかして主体的に九九を構成することを大切にしています。単元前半の6、7の段では考える手がかりを子どもの考えとして例示していますが、後半の8、9の段ではあえて手がかりの例示を避け、既習をいかして自ら考えることを重視しました。

1 6のだん、7のだんの九九  
6のだんの九九  
6のだんの九九をつくりましょう。

2 6のだんの九九のつくり方を考えよう。  
 $6 \times 1 = 6$   
 $6 \times 2 = 12 \dots 6 + 6$   
 $6 \times 3 = 18 \dots 6 + 6 + 6$

3 9のだんの九九をつくりましょう。  
9のだんの九九のつくり方を友だちにせつ明してみよう。

9のだんの九九をつくり方をくふうして考えよう。  
 $9 \times 1 = \square$   
 $9 \times 2 = \square$   
 $9 \times 3 = \square$   
 $9 \times 4 = \square$   
 $9 \times 5 = \square$   
 $9 \times 6 = \square$   
 $9 \times 7 = \square$   
 $9 \times 8 = \square$

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。

▲下 p.33

### 分数の学習における「割合」の素地づくりを重視！ ⑬分数

分数の単元では、2量の関係を割合的に捉える素地づくりを重視しました。具体的には、「A個の二分の一はC個」と表したり、倍の学習と関連づけてどちらかを基準とし、もう一方の大きさを表したりする学習を位置づけました。

8 この  $\frac{1}{2}$  は 4 こだね。

1 下のおかしを、2人で同じ数に分けましょう。  
ひとり1人分は、12この  $\square$  で  $\square$  こ

①の長さは、②の長さの  $2$  ばい。  
②の長さは、①の長さの  $\frac{1}{2}$ 。

▲下 p.85

▲下 p.87

### 問題解決の文脈、データ分析の重視！ ⑭グラフとひょう

グラフと表の学習では、調べる目的、観点の多様性、結論の多様性を重視し、必然性のある問題解決の文脈にこだわりました。また、グラフや表を作成するためのQRコンテンツを設定したことにより、グラフや表の作成を効率化し、データの分析に多くの時間を使うことができるようになりました。

8 クラスのみんなと もっと なかよくなるには？

1 みんなで したい あそびの 多い、少ないを あらわしましょう。

2 1年のときは、はしを そらえて ならべた 絵に…、 絵がないときは…

3 みんなで したい あそびについて、もっと くわしく しらべましょう。

2つのグラフを見て、みんなで したい あそびを 考えよう。  
 ① 1回めから 2回めて、人数が へった あそびは 何ですか。  
 ② 上の 2つの グラフを見て、クラスの みんなで したい あそびを えらびましょう。また、その わけも いいましょう。

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。

▲上 p.8

▲上 p.9

▲上 p.11

### プログラミング的思考の重視！ ⑮たし算のひっ算 ほか

筆算を扱う単元では、筆算の手順を動画で示すQRコンテンツを設定し、繰り返し何度も確認できるようにしました。また、画面右側には筆算の手順を示すブロックも表示し、筆算の学習を通してプログラミング的思考の素地を培うことができました。

35 + 12 の ひっ算のしかた

5 + 2 = 7

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。



### 問題をつくり、発展させる展開を追求！ ④たし算とひき算の筆算

「たし算とひき算の筆算」の導入では、**数カードを使った筆算づくりを通して既習のポイントをふり返るとともに、数範囲を3桁に広げた加減筆算を考える必要感をもてるようにしました。**さらに、単元後半に新設した、**自ら学習計画をたて実行する力を育成するためのページ「それなら次は？」**において数範囲を4桁に広げる際にも導入の問題づくりを拡張させ、**自ら学習を広げることができる展開としました。**なお、**教具の準備が必要なく、何度も繰り返し問題をつくる**ことができるように、**問題づくりのためのQRコンテンツを設定**しました。

44 たし算やひき算の式をつくってみよう

0から9までの10まいのカードを使って、たし算とひき算の式をつくりましょう。

たし算:  $29+14$ ,  $69+54$

ひき算:  $43-15$ ,  $123-54$

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスしていただけます。

▲上 p.44

50 〓それなら次は？〓 自分たちで学習をきりひろこう

これまでの学習をふり返って、この後の学習の計画を立てています。

3けたの数のたし算やひき算ができるようになったね。

4けたの数でも式をつかって考えてみたいな。

これまでの3けたの数の筆算では、どのように考えてきたかな。

1 位のそろえて書いた。

2 一の位からじゅんに位ごとに計算した。

たし算:  $365 + 472$

ひき算:  $315 - 194$

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスしていただけます。

◀上 p.50

### 領域横断教材で「割合」の素地づくりを強化

ミニ単元「倍の計算」

倍と測定は、どちらも、基準とする量を決めて、そのいくつ分にあたるかを考えます。そこで、倍の三用法をまとめて扱い割合の素地をつくるミニ単元「倍の計算」では、**倍の学習と測定の学習を同じ数学的な見方・考え方で統合的にとらえて学習をつなぎ、相互に理解を深めることができる教材から導入**しました。

76 倍の計算

これまで、いろいろなものの大きさを表してきました。

長さ: えん筆の長さは、消しゴムの4こ分です。

えん筆の長さは、クリップの3こ分です。

かさ: 水どうし入る水のかさは、のりのはい分です。

もとの大きさ決めて、その何こ分かで大きさを表したね。

▲下 p.76

### 個々の学習のつながりを重視！

⑬小数と⑮分数 ほか

小数と分数では**加減計算の数値を関連づけて数学的な見方・考え方で統合したり、わり算と分数を関連づけて割合の素地づくりを行ったりするなど、学びがつながり深まる取り扱いを随所に取り入れました。**

⑬ ⑮

⑬  $\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$  は、 $\frac{1}{10}$  をもとにして、 $3+2$  の計算で考えることができる。

⑮  $0.3+0.2$  は、 $0.1$  をもとにして、 $3+2$  の計算で考えることができるのと同じだね。

▲下 p.53

⑮

80cmの $\frac{1}{4}$ の長さは、80cmを4等分した1こ分の長さだから、 $80 \div 4$  の式でもとめることができる。

$80 \times \frac{1}{4} = 20$

$80 \div 4 = 20$

▲上 p.124

### データの分析力向上を重視！

⑥ぼうグラフと表

「ぼうグラフと表」の導入では、「**けがを減らす**」という目的のもと、データを調べる観点として「**時間**」「**場所**」「**原因**」をひき出す話し合い活動を取り入れ、**常に意識できるように強調**しました。また、**棒グラフをつくる時間を短縮し、データの分析により多くの時間を使うことができるように、棒グラフを作成するためのQRコンテンツを設定**しました。**単元の学習にとどまらず、自由研究などでも活用が可能**な自由度の高い仕様です。

けがをへらすために、けがに注意するポスターを作ることになりました。

こうかがあるポスターを作るのに、どんなことを調べればいかな。みんなで話し合ってみよう。

けがをした時間はいつが多いかな。

けがをした場所は…。

けがをした原因は…。

けがの原いんと人数

けがをした時間

けがをした場所

けがをした原因

◀上 p.66

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスしていただけます。



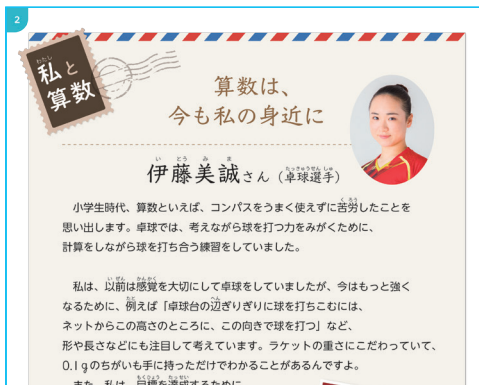
### 「算数の価値や身近さ」を実感!

上巻巻頭「私と算数」

算数の学習で身につける力は、すべての人が一生活用するものです。「新編 新しい算数」で学習する子どもたちがこのことを意識できるように、世界レベルで活躍する方に算数の学習の価値や身近さを語っていただくページを新設しました。

※5年上ではプロ野球選手の**大谷翔平さん**、6年では宇宙飛行士の**野口聡一さん**にそれぞれ語っていただきました。併せてご覧ください。

上 p.2▶



### 「割合」の手厚い素地づくりを実現!

ミニ単元「倍の見方」

「割合」を苦手とする子どもは少なくありません。そこで、**倍の三用法をまとめて扱うミニ単元を設定**するとともに、「**基準量を1とみたとき、比較量が〇にあたる**」という難しい解釈について、紙面上の図をていねいにしました。

さらに、QRコンテンツを設定して、この解釈を動的に捉えることを可能にしました。具体的には、**基準量を表す長さが、1つずつ比較量にあてはまる様子を動的にみる**ことができます。

図を見て、5倍の意味をくわしく調べよう。

3mを1とみると、(15m)は5にあたる

3mを1とみると

5倍というのは、3mを1とみたとき、15mが5にあたることを表している。

3mを1とみると、15mは5分の長さだね。

5倍 3m

15m

15m

3m

0 1 2 3 4 5 倍

0 1 2 倍

まとめ

5倍というのは、3mを1とみたとき、15mが5にあたることを表している。

5倍 3m

15m

15m

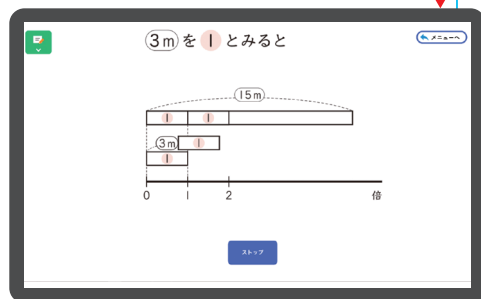
3m

0 1 2 倍

しほ

▲上 p.113

このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。



### 「思わず考えたくなる導入教材、展開の採用!

⑫面積

「新編 新しい算数」では、**新たな問題との出会い(数学的活動A)**を重視しています。例えば「面積」の導入では、**周囲の長さが同じ花壇の面積について考え対話する場面を、L字型の面積の時間では、既習のポイントを自然に振り返りつつ、驚きを伴って新たな問題に出会う場面を可視化**しました。

下 p.58~59▶

まわりの長さが同じとき、広さは?

12本の同じ長さの直線だけを使って、字級の花だんのせつじい図をつくりなす。

せつじい図をつくるときのルール

- 等しい間隔にある、となり合った点どうしをつないだ直線を1本と数える。
- 等間隔には、つながない。
- 花だんの中は区切らない。

これらのような形はつくりなす。

下の図に直線をかいて、いろいろなせつじい図をつくりなす。

① ② ③の花だんの形をつくりなす。

④ ⑤の花だんの形をつくりなす。

⑥ ⑦の花だんの形をつくりなす。

⑧ ⑨の花だんの形をつくりなす。

⑩ ⑪の花だんの形をつくりなす。

⑫の花だんの形をつくりなす。

⑬の花だんの形をつくりなす。

⑭の花だんの形をつくりなす。

⑮の花だんの形をつくりなす。

⑯の花だんの形をつくりなす。

⑰の花だんの形をつくりなす。

⑱の花だんの形をつくりなす。

⑲の花だんの形をつくりなす。

⑳の花だんの形をつくりなす。

㉑の花だんの形をつくりなす。

㉒の花だんの形をつくりなす。

㉓の花だんの形をつくりなす。

㉔の花だんの形をつくりなす。

㉕の花だんの形をつくりなす。

㉖の花だんの形をつくりなす。

㉗の花だんの形をつくりなす。

㉘の花だんの形をつくりなす。

㉙の花だんの形をつくりなす。

㉚の花だんの形をつくりなす。

㉛の花だんの形をつくりなす。

㉜の花だんの形をつくりなす。

㉝の花だんの形をつくりなす。

㉞の花だんの形をつくりなす。

㉟の花だんの形をつくりなす。

㊱の花だんの形をつくりなす。

㊲の花だんの形をつくりなす。

㊳の花だんの形をつくりなす。

㊴の花だんの形をつくりなす。

㊵の花だんの形をつくりなす。

㊶の花だんの形をつくりなす。

㊷の花だんの形をつくりなす。

㊸の花だんの形をつくりなす。

㊹の花だんの形をつくりなす。

㊺の花だんの形をつくりなす。

㊻の花だんの形をつくりなす。

㊼の花だんの形をつくりなす。

㊽の花だんの形をつくりなす。

㊾の花だんの形をつくりなす。

㊿の花だんの形をつくりなす。

面積の求め方のくふう

2 下のような形の面積を求めなす。

問題をつかもう。

● 今日どんな問題かな。



このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。

下 p.65▶

### 「文字式を見据えた素地づくりの強化!

⑪変わり方調べ

文字式は、中学校入学後も苦手とする子どもが少なくありません。その一因として、**文字の役割の理解が十分ではない**ことが指摘されています。そこで、4年では、**変数としての文字の役割をまずりんの吹き出しで明示し、子どもが意識しやすくなるように**しました。3年での未知数としての役割の明示に続き、**系統的に素地づくり**を行うことができます。

▼下 p.52

いろいろと変わる数のかわりに、□や○を使うことがあるよ。

### 活用場面の充実！ ⑪平均

「新編 新しい算数」では、学習したことを生活にいかす力を育てることを大切にしています。例えば「平均」の学習では、全国学力学習状況調査なども参考にしながら、必然性のある場面設定にこだわり、測定値の平均、外れ値の処理をていねいに取り扱いました。

12 平均の利用

まいさんたちが、ある一輪車のタイヤを1回転させたときに進む長さを、5人で1回ずつ回して調べたら、下のようになりました。このデータから、この一輪車のタイヤを1回転させると、どれだけ進むと考えられますか。

150.2 cm、150.9 cm、150.3 cm、150.6 cm、150.5 cm

同じ一輪車ではかったのに、はかった長さは全部ちがうね。

何回かはかったデータから、より正確な大きさを知る方法を考えよう。

しほさんの考えを説明しましょう。

5回のデータの□が、より正確な長さと考え、  
 $(150.2 + 150.9 + 150.3 + 150.6 + 150.5) \div 5 = 150.5$  (cm)

何回かはかったデータから、より正確な大きさを求める目的で、データの平均を求めることがある。

▲下 p.23

24

りくさんたちは、理科クラブで、ゴムの力で動く車の実験をしました。

下の記録は、車の先端が⑦の位置にくるまでゴムのぼして手をはなしたときに、車がどれだけ進むかを、5回調べたものです。

⑦の位置までゴムのぼして手をはなしたときに、車はふつとどれだけ進むと考えられますか。

① 7.43 m ② 0.78 m ③ 7.87 m ④ 7.69 m ⑤ 7.93 m

2回目は、失敗してしまいました。

ほかと大きくちがう記録があるときの、平均の求め方を考えよう。

2人の考えについて話し合おう。

りくさんの考え  
 $(7.43 + 0.78 + 7.87 + 7.69 + 7.93) \div 5 = 6.34$  (m)

りくさんの目的は、「...だから...」

りくさんの考え  
 $(7.43 + 7.87 + 7.69 + 7.93) \div 4 = 7.73$  (m)

りくさんの目的は、「...だから...」

目的によっては、ほかと大きくちがう記録をのぞいて平均を求めることがある。

▲下 p.24

### 「速さ」の本質的な理解を支援！ ⑫単位量あたりの大きさ

「速さ」を苦手とする子どもは少なくありません。だからこそ、本質的な理解をめざして速さを決める2量（道のり、時間）を見いだすきっかけとするための紙面を新設するとともに、QRコンテンツで動画を見ながら考えられるようにしました。

⑦と⑧の車が同時にスタートします。速いのはどちらかな？

スタート



このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。

「速い」って、どういうことかな？

⑦と⑧の車が同時にスタートしました。速いのはどちらかな？

⑦と⑧の車が同時にスタートしてから5秒後の様子です。速いのはどちらかな？

上の2つの場面で、速いのはそれぞれどちらかな。また、理由を説明してみよう。

▲下 p.32

### 数直線の図を活用する力をいっそう伸長！ ④⑤小数のかけ算、わり算

子どもにとって、積<被乗数、商>被除数となることを理解するのは簡単ではありません。そこで、数直線の図を自ら完成させる活動を取り入れ、積や商の大きさについていっそうていねいに取り扱いとともに、数直線の図の完成を支援するQRコンテンツも設定しました。

④ 1.3L、0.6Lのとき、それぞれの重さを□gとして数直線の図に表し、□を求める式を書きましょう。また、答えも求めましょう。

0 400 (g) 式 □ g

⑦ 1.3L 0 2 (L) 答え □ g

⑤ 0.6L 0 2 (L) 答え □ g



このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。

4 1Lの重さが400gの土があります。この土の1.3L、0.6Lの重さは、それぞれ何gですか。

④ 1.3L 0 400 (g) 式 □ g

⑤ 0.6L 0 400 (g) 式 □ g

400gを1とみたと、0.6にあたる重さを求めることも、かけ算が使えね。

かけ算だけど、0.6Lのほうは、積が400より...

▲上 p.47

### 「割合」の本質的な理解を支援！ ⑭割合

「割合」は、理解困難な学習内容の1つです。そこで、意味の理解では数直線の図を操作するQRコンテンツを設定したり、わりびき、わりまはそれぞれ図をていねいに1ページ扱いにしたりするなど、単元全体を通して本質的な理解ができる構成にこだわりました。

④ 比べられる量(入った回数) もとにする量(シュートした回数)

0 9 15 (回)

Cさん 0 □

Dさん 0 □

$9 \div 15 = \square$

▲下 p.67

Cさん 0 □

Dさん 0 □



このQRコンテンツには、左の二次元コードからアクセスいただけます。

2 仕入れのねだんが500円の筆箱に、30%の利益を加えて売ります。売るねだんはいくらですか。

100%のねだん 500円

30%加えたねだん 30%の利益

わりびきとわりまは同じように考えよう。求める方法は2つ...

30%加えたねだんの求め方を考えよう。

30%のねだん  $500 \times 0.3 = \square$

500 +  $\square = \square$  答え □ 円

30%加えたねだん  $500 \times (1 + \square) = 500 \times \square$

500 +  $\square = \square$  答え □ 円

30%加えたねだんは、下の2つの方法で求めることができるね。

- 30%のねだんを求めて、もとのねだんにたす。
- 100%に30%をたした、130%のねだんを求める。

▲下 p.77



